



【みよし SDGsアワード 明石農園】

2003年に新規就農して19年目。全くの素人が循環型農業を志し、資金、農地、技術、売り先全て「ゼロ」からのスタートでしたが、農薬、肥料を使わず持続可能な農的暮らしを目指してきました。はじめは夢物語のように思われていましたが、今回三芳町からこのような賞をいただけるなんて、本当に嬉しいです。

これも研修先の渋谷農園さん（富士見市）、三芳町で初めにチャンスを下さった故船津貞夫さん、三芳町で研修先になって下さった松本薫さん、農家として受け入れて下さった三芳町農業委員会の皆さん、近隣の農家さん、明石農園研修生のみんな、援農に来て下さっている皆さん、お野菜を買い支えて下さっているサポーターの皆様、有機農業の技術を惜しみなく教えて下さった有機農家の皆様、農地や雑木林を貸して下さった皆様、自然栽培を普及しようと一緒に取り組んでいる皆様、「お百姓さんになりたい」を撮影して下さった原村監督、そして両親、叔母、妻、子どもたちにたくさんの方々のお蔭で、今回表彰して頂くことができました。皆様のお陰です。有難うございます。

三芳町役場で日々働いてくださる皆様、このように立派な賞に選んでくださり、本当に有難うございました。今回の授賞式には参加が叶いませんでしたが、明石農園は今後も人と自然が共に豊かになる暮らしが営めるよう、できることを続けて精進してまいります。今後ともよろしく願い致します。

明石農園

代表 明石誠一





【みよしSDGsアワード 石坂産業株式会社】

この度は、栄誉ある「みよし SDGs アワード」を頂き、大変光栄に存じます。本受賞は、日頃からご指導いただいている三芳町役場さま、並びにご支援いただいている地域の皆様のお陰であり、深く感謝を申し上げます。

当社の SDGs 活動は、地域の皆さまと共に歩み、自然と人が循環する資源循環型社会の実現を目指すものになります。町の特徴である四季彩に変化する美しい平地林を保全再生し、三富今昔村と称して地域の皆さまの集い・憩い・癒しの場として、また学校の体験型の教育の場、郷土愛を育む場として、様々な目的でご利用頂いています。

今後とも地域から愛され持続可能な企業となるよう精進してまいります。皆さまには、引き続きご指導・ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。この度は、本当にありがとうございました。

石坂産業株式会社
代表取締役 石坂 典子





【みよしSDGsアワード 大崎電気工業株式会社 埼玉事業所】

この度は三芳町 町制施行 50 周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。
これまで三芳町とは、地域の発展のためハンドボールを通じて一緒に活動をさせて頂いております。
この度、SDGs 宣言の取り組みから「地域と密着したジュニアハンドボール活動」が評価され、この賞を受賞することができました。本当にありがとうございました。

2019 年度から町内の小学校を巡回し、今年度は上富小学校で「投力向上」を目的とした、講習会を実施させて頂きました。これからも、このような活動を継続し、三芳町民の健康づくりや、子供たちの体力向上そして、ハンドボールを通じてスポーツの普及・推進に努めて行くと共に大崎電気グループとしても環境の保全と社会の持続的な発展に貢献して参ります。

これからも三芳町の発展のため、協力して参りますので、何卒、よろしくお願いいたします。

大崎電気工業株式会社 埼玉事業所
常務執行役員 生産本部長 島山 淳実





【みよしSDGsアワード 三芳町川越いも振興会】

この度は、このような輝かしい賞をいただき、ありがとうございます。

三芳町川越いも振興会は、武蔵野の面影を今に伝える上富地区で、江戸時代から続く平地林の落ち葉堆肥を使った伝統農法によりサツマイモを栽培しています。

落ち葉堆肥農法は、毎年冬に落ち葉を掃き集め、1年から2年かけて堆肥化した落ち葉を畑に漉き込むことで土壌改良を行う農法です。平地林の育成は江戸時代から続き、多様な生物の生息環境ともなっています。また、落ち葉を燃やさず堆肥化することで土壌環境を改善し、さらに一酸化炭素やメタンガスの放出を防止しています。

この地域では「当たり前」のように毎年実施している伝統的な落ち葉堆肥農法が、環境の世紀と言われる21世紀においては最先端として認識されたことに深い感慨を覚えます。今後も環境面の循環を経済や社会へ波及・展開させ、魅力ある持続的なまちづくりの実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。

三芳町川越いも振興会
会長 早川 忠男





【みよしSDGsアワード 特定非営利活動法人 れでいばーど】

この度は素晴らしい賞を頂戴し光栄です。

受賞は活動に係るすべてのボランティアスタッフや支援者の皆さんのものであり、誇りとなることが、大変うれしく思います。

子ども食堂という活動は「子どもの貧困」という社会問題に対して、子どもたちの置かれている環境と未来に危惧した人たちから始まりました。その後、多様な特色ある子ども食堂が日本各地で派生しました。

SDGsで掲げる「貧困をなくそう」のみならず、まちづくりやフードロス対策など様々な開発目標に親和性のある活動となります。何より「だれひとりとのこさない」という思いは、食堂の理念にも通じるものがあります。

孤立を防ぐため微力ではありますが、継続していきたいと思えます。

特定非営利活動法人 れでいばーど
代表理事 飯塚 結花

